

第一 和尔部ワカサキア左京 和尔部ワカサキス同上 和尔部ワカサキ臣同上 九部ワカサキ 同

十二才 若櫻部ワカサキア右京 和尔部ワカサキ 同 和氣ワカサキア同 别公ワカサキ 同 和尔ワカサキ

部山城 度守首ワカサキ 同 别公ワカサキ 同 和尔部ワカサキ 攝津 和氣公ワカサキ 和泉

第二 若湯坐ワカサキス左京 若倭部ワカサキム右京 若倭部ワカサキ 同

十四才 若櫻部ワカサキミ同 和尔古ワカサキ 大和 若湯坐ワカサキス攝津 若湯坐ワカサキム河内

廿一才 若犬養ワカサキス同 若櫻部ワカサキミ和泉 若犬養ワカサキス同 第三 若ワカサキ

江右京 十才

井

第一 爲名ワカサキニ右京 爲奈ワカサキニ攝津 猪使ワカサキス左京 井代臣ワカサキ 攝津

第二 猪名部ワカサキニ左京 第三 爲奈部ワカサキ 攝津 爲奈部ワカサキ 未定攝津

猪甘部ワカサキ 同和泉 廿九才

姓氏録を校合する大むの

一 姓氏録の全書とほろびくせく世小傳とび今ある所のりのも其抄録とく。一説り全書の目録とぞ。目録とりよべき諸氏の祖事残やけり。とせり。とぬよとあはば諸氏の祖事残やけり。とせり。とぬよとあはば此抄録の書ど小世小残らばと。何小よりく。諸氏のわうれ出る所と考へたらす。とれどいめ一の全書小あはばといども。古學と益とくるうと縁どりのよび小。とくろぎあむ人も。とめとよとよと

書之けり。とらる。今世りある所の印本大本小本共誤字。脱文。衍文。其外。さぬくの誤どもいと多くく。よと得がさき所。いとねほくを。あさひ。あらさふ。刻るほひとて。予コト小校合を乞つり。そも此書と。いさど。諸先生とらぬ。ふうく。カを用ひらき。くともなけれど。淺學薄聞とら。稻彦らガカの。よくおよぶ所。あり縁ど。さのといひて。やむべきとも。おぼえ縁ど。ひととら。師説より。よくかき。つれど。猶いぶ。うさとのとおほうとも。いづともせん。

一 師説といふは。姓氏録のよて。別よ。あるさぬとも。のみとなけれど。古事記傳全部四十卷の中小。姓氏録の姓の彼記ふとえ。あるハ人名。地名。言葉の縁チヤどふりて。いまれとも。もいとねほく。これらら。大うさり。はとるく考合せ。り。文字よなれ。訓コトよなれ。師説ふりて。改え。こといとあほ。又師説よありひて。予コトが考とるもあり。其外ハ。遠江國人。内山真龍が。あさハせ。此書の注。三十卷ありとら。ゆ。其説とて。友人。上田百樹京師が書入とら。又百樹が。うづの説も。か

きされとえざる。大うゝあきらが中ふよろしと  
 れぼゆる考ふられり。又本文のそべての訓ハ師  
 の古事記傳ヲ引用られざるも小つけられ  
 る訓のあもぶき小よりて予あたるふつけれ  
 どいさくみのとも師説を尋ねて尸の勝をマサ  
 子の。上官をカペノ。よきれば。さうり小あ  
 ヤ。よむとぐひなり。よきれば。さうり小あ  
 づり。あろーぶるとなけれ。

一 數本を合せざる小。本文の異同いと多くして。あ  
 とも小得失あり。今ハ其數本の中小善とおぼゆ  
 をとあり。其よりづつ小くはく。あるとも

ゆれざる。びいえりのせ。追てつぎびとふり  
 論ふべし。

某姓出自某也あるも某とあるして。其次ある姓

同祖ある時と同上此外小同祖とあるも。序小い

系並録而載云々書曰同祖之後とあるとあるせ

るとつまるるり。さばあるとて。前文のどく。

あるも某後也とあるせざるもあり。たへち旧印

連出自山田宿祢同祖忠意之後也とあるとある

とあるせざるもあり。今此二をワづれらるる

とあるせざるもあり。今此二をワづれらるる

とりふよ己考オレけりく古の本書めら。姓どふ。某後也。とやらぬ。つらびらめど。あるとれけむ。同祖とあるは別よ。心あると既ふいへり。あるれども抄録のうへをもていふ時ハ。同上とあるうへよろしきふ似たり。その故ハ。同上とあるうへ抄録の書の躰ぶたあればかり。さきバ。一本ぬ。同上とあるハ。そのうへふ。さかへり。のらさども。其一本も。さハ免て。同上とあるとめども。一本ぬ。とあり。序よ三體三例とりふとあり。三體ハ。神別。皇別。諸蕃よて。誰もよくあるとめて論あり。つどふ。三

例とりふら出自。同祖之後。之後。と三つめて。此三つのとらぬふらあり。あるとれども。今の姓氏錄と抄録の書ら。故ふ。とべてのうぬも。とらぬけり。とらぬけり。とらぬの。とらぬの。天皇の御事と。あるせらよ。実の大御名を。あるせらうと思へ。とらぬけり。とらぬ。後の御蓋を。あるせら。た。とらぬ。とらぬ。此三例も。分明アキラカふら。わらぬ。とらぬ。中ふ。出自とあるら。枝別之宗。特立之祖を。とりありて。三例の中ぬも。とりわきて。祖事つらひららふ。正しと氏と。ゆれを。皇別神別ともふ之。後あるふ。比ヒてら。出自とあるうへ。数も。と

よみく。そくあを。諸蕃ふりりてふりて。出  
 自とある。せむ。いと多き。いとく。ざけ  
 とある。一本ぬ。出自とある。いとく。これ  
 りて。おほく。之後とあり。此本より。き小似  
 る。故ふ。今ハ。おぼく。これよ。ゆり。之後とあ  
 る。が。よろ。きよ。似る。序小。祖事。涉。狐疑。  
 書曰。之後。といひ。所以辨遠近。示親疎。あとり  
 をめて。う。諸蕃よ。あれを。なり。

一 誤字ぬ。れ。衍文ぬ。れ。脱文ぬ。れ。あや。より分  
 明ある。もの。篇中の例。ある。ハ。異本。ある。ハ。古事

記以下六國史などふり。或ハ。正。或ハ。補ひ。或  
 らげ。異本。よ。りて。補ひ。あ。あ。補  
 ひ。る。ハ。圍。又。古事記。日本紀。など。ふ  
 と。が。入。る。も。此書の。本の。あ。と。ゆ。と。と  
 ひ。い。あ。と。あ。て。も。け。あ。と。め。は  
 て。字の。左。ぬ。○。を。つ。け。り。つ。て。ふ。り。字の。左  
 あり。右。今。い。を。つ。け。り。論。ある。字。此。外  
 を。て。い。の。め。て。も。心。決。さ。さ。い。あ  
 り。あ。と。め。ど。又。師説。も。あ。は。友。人。の。考。ふ  
 も。あ。は。己。が。ひ。り。の。心。よ。思。ひ。得。る。と。い

とひより所あり。とていふべし。さうざうとこといへども。さげなく。本のまゝあつておきて。うらふとき。そのまゝとわたり。

一 舊印本あり。本文を註のどくうを。細注を。本文やせし類のひがどいど多し。今ハ一本あり。とくくあり。とめ正せり。

一 舊印本の細注あり。後人舊事紀ふりて。うさくハへさるども。あれうれあり。或本よ。旧印本よ。又後人の傍註せしもの。本文又。入まらざるもあり。あれらの類もハ。師説。又一本の正しきふよ

りて。とくけり。

一 日本紀合。續日本紀合やある類も誤あり。又うさげしきもあり。あつていひとくひを合せて。考へて。又古人の引合ざるもいとあつて。えさうりさてついでより。此姓氏録と。大う日本紀ありて。定免するものこと。我師いへり。其心してとるべきこと。

一 姓よ。人なふれ。訓のまゝとあるあり。とへど。神松といふ姓。一本神私とあり。是らいひれ。とも。定めがさ中よ。私と松よ。誤れる例もあつ



くもよきけり。其故ハ序小、臣等歴探古記、博  
 觀舊史、文駁辭踏、音訓組雜、とあり。次小古記を  
 さねがら、ききるよりとえり。此序の詞小  
 より、音訓つゝ終よむ時と上よ舉ぐる、人名の  
 類多ふも、やとくよと得らるゝあり。ととへど、天  
 仁木命をアメノニキノミコト、穗己都久命をホ  
 コツクノミコト、などよ多る類ひなり。

一 此書の本コト文コト義理不通所々、いとおほし。ととへど、  
 前文あり、其人の名をも、いとどして、奥ふりつゝりて、  
 ゆぐりるゝ、其人のとをいひ、又ハ前文小、ありて

名をあげ、奥ふりて、とて、誰がとて、と  
 くり、とと類ひあり。故思ふよ、りりく  
 と、此書の撰者より古記の文をとりつゝりて、事を  
 約小きとて、とぶととぶとれ、よや、との思ふ  
 故と、序小、臣等奉勅、謹加研精、摺摺群言、沙汰金磔、  
 截舊記之煩蕪、採會新之機要、除新系之塗說、撮通  
 古之折中、思下所以令、文約辭易、冷然示掌、煥乎指南、  
 とあれをかり、とと、此書の撰者よりの力  
 の程を思ふよ、とをり、つとる人よ、めも、ある  
 といれを、本より舊記の文をとり、





字づらひとて、いとく異コトして、あやしくよき得  
 らざる書カキサマ様あるもの一種ヒトシあり。よきハ、納比且  
 止。然能解公。又借字ナがきの中小。壹呂比麻呂みど  
 の類ひも、書をよむ小のぞきて、誰も思ひまどふ  
 となり。あはくも、師説よ、字のよく小よきおくべ  
 きより、あるふよりて納比且止ハ、十フヒタムシ。  
 然能解公ハ、ネムノウケコウ。壹呂比麻呂ハ、イチ  
 ロヒマロトヤノホよめり。  
 上件小いへるよきもの外めも、此書のよきつぎ  
 といをよほしよきといとくおほらゆれど、よきひ

とく、校合訓點るど小のよきあつうおるとかき  
 を、いづつよきてよきせり。  
 此よび校合也。むよきを用いよる本と、吾師の書入  
 本此本伊勢内宮祿宜荒木田經雅卿本をもて書  
 本入校合せらまよるよりの奥書ありて其外數  
 本をもて、異同をよる、又古事記をもて、六國  
 史をもて、姓氏のよき、えよるを、りよ、とく  
 引合せ考へよきの、つよよるよき、おられよ  
 り、内山真龍の注本よ、古本よあるよ、此經雅卿の  
 本あり、さてハ我友上田百樹、京師  
 心をつつて、數本をもて、校合よる本なり、此外  
 小も、一二本を考合せよれど、上の二本よてよつ  
 きより。